

代表者経歴

1962年東京に生まれる / 1985年早稲田大学理工学部建築学科卒業 /
1987年同大学院修了(池原研究室)1987年～1997年東海大学上松(あげまつ)佑二教授に師事
1991～93年ミュンヘン工科大学【ドイツ学術交流会による】
1995年 工学博士(早稲田大学)
1996年「19世紀ドイツ建築論における『様式統合』の理念」で日本建築学会奨励賞受賞 /
1997年前橋工科大学専任講師 / 同大学大学院准教授
一級建築士(大臣 275874号)
2011年Baubiologe IBN(バウビオロギー・アドバイザーIBN)(日本人初)
2012年前橋工科大学教授



社会貢献

大学発ベンチャー 一級建築士事務所(有)ピオ・ハウス・ジャパン代表取締役(2004年3月設立) /
日本バウビオロギー研究会(2005年3月設立～) 代表理事
軽井沢まちづくり委員会委員(2008年～2012年)
日本建築学会教育施設委員会委員(2012年まで)
社団法人 日本電磁波測定士協会 理事(2009年～2014年)
社団法人 普遍アントロポゾフィー協会ー邦域協会日本 理事(2010年～)
群馬県街中緑化推進検討部会 委員(2011年～2013年)
群馬県建築士審査会委員(2012年～)
社団法人 日本電磁波協会 理事長(2015年～)

主な著書

『健康な住まいへの道 バウビオロギーとパウエコロジー』(H・ケーニツヒ著、2000年)
『健康と環境にやさしい住まいづくりを目指す建築生物学の緑化』(共著、2003年、NTS)
『バウビオロギーという思想』(A・シュナイダー+石川恒夫著、2003年、建築資料研究社)
『日本で実践するバウビオロギー』監修・共著(学芸出版社2006年)

雑誌掲載(抜粋)

子供が帰りがらないエコ小児科 あらいキンダークリニック、日経アーキテクチャ2003年2月3日
軽井沢の家(長野県・軽井沢町)+健康な暖房と素材を意識したいいくつかの試み、新建築住宅特集11月号(2004)
桃ヶ丘保育園改修工事(群馬県・高崎市)、バウビオロギー第18号(2009)
八幡幼稚園(群馬県・高崎市)、日経アーキテクチャ(2011)
次世代を見据えた家づくり(大宮の家 ピオ・キューブ)『住む』2012年夏号

共同研究・地域課題研究

開放系における空気イオンとホルムアルデヒドの相関性に関する研究(菅原研究所、2002～2004)
マイナス・イオンによる化学物質低減効果に関する研究【菅原研究所との共同】
現代版「土壁の家」づくりのために((有)DEF、公募型共同研究事業2012～2013年度)
安心・安全な空間をつくるための情報発信の場の創出 - 前橋市荒牧町をケース・スタディとして(2014年度)